

## 令和6年度事業報告

はじめに、昨年度から手登根前会長に代わり、会長を拝命しております那覇市立病院の山城です。新任で不慣れな点が多々ございますが、よろしくお願いいたします。

昨年度は、能登半島において大地震が起こり、甚大な災害を被り多くの方々が被災されました。また、沖縄県においても、本島北部地域を中心に降り続いた大雨により、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。この様に、全国的に災害に遭遇する機会が増加傾向にあり、日臨技においても一層災害対策についての認識が高まっております。昨年度から47都道府県における行政や薬品卸業界との災害対策協定の締結を推進しております。当会も予定しておりますが、現在までに大きな成果が得られておりません。

昨年度の重点課題について、まず、「タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会」に関しては、昨年度までに10回開催しており、会員の約61.4%の方々が終了されました（令和7年4月10日時点で沖縄県は全国8位）。次に、臨地実習に関しては、昨年度の実習生より、臨地実習受け入れ施設においては1名以上の臨地実習指導者の配置が義務付けられており、実習する学生も、そして実習生を受け入れる側も実習内容のレベルアップが求められております。沖縄県内の実習生受け入れ全施設において、臨地実習指導者が配属されております。

新人研修会について、昨年度、コロナ禍以前のように、ペンションを貸し切った宿泊研修を実施いたしました。この研修会では、日臨技の横地新会長をお招きしており、多数の受講者がみられました。加えてメディカルテストジャーナル（MTJ）の取材担当者も同行していただき、本事業が掲載されました。しかし、受講者の宿泊に関しては、以前とは異なり、大幅に減っておりました。これも時代とともに変化し、コンプライアンス面においても厳しくなっているため、当会としても、新人研修会のあり方を見直す機会だと思っております。

公益活動は、9月から11月に延期となったなごみ会主催の第11回県民健康フェア2024、同じく11月に日臨技委託公益事業である全国「検査と健康展」を開催いたしました。前者では、他の医療関連団体と比較しても当会のブースは活気にあふれ、後者においては、マスコミ（ラジオや新聞等）の広報をおさえた影響なのか、若干集客数が減少しておりました。今回は琉球大学医学部保健学科の学生も数名ボランティアで参加しており、将来臨床検査技師として働いた場合でも、今後が期待出来る素晴らしい対応を実践しておりました。一昨年度から沖縄県公衆衛生協会から声がかかり、県主催で子供向けに科学の面白さを知ってもらおうと企画された「サイエンティフィックフェス」に昨年度も“in イオンモールライカム”、“in 那覇メインプレス”、“in 北部（本部町）”の3ヶ所に参加させていただきました。多くの親子連れが途切れなく訪れ、臨床検査の面白さを十分に伝えることが出来、臨床検査技師を大いにアピール出来たことと思います。

連盟関連では、永遠の課題になるかと思いますが、臨床検査技師の地位向上には政治的力が不可欠となります。宮島前日臨技会長が国会議員を退き、技師会に入ってくる情報もかなり乏しくなっております。今後、臨床検査技師の議員を擁立することが非常に重要で、特に若手の臨床検査技師に連盟の必要性や政治とのかかわりの重要さを、継続的に周知させていくことが必要かと考えます。

沖臨技の事業の一つに、3年前から開始した「ひまわり奨学金事業」がありますが、一昨年に待望の奨学生が1名、昨年度は2名が誕生いたしました。徐々にこの事業が浸透しており、引き続き県内の各高等学校へは案内をかけ、将来沖臨技を背負って立つような優秀な人材獲得に注力していきたいと思っております。

学術活動については、昨年度は日臨技の助成事業を最大にあたる20研修会活用いたしました。これは、学術研究班が活発に動いたかを示す証だと思っております。昨年度は、日臨技九州支部の生物化学分析部門研修会も2日間にわたり沖縄県で開催され、非常に充実した内容となっております。現在、研修会のあり方がコロナ禍前の対面式に戻りつつあり、内容も講演形式だけでなく、グループワーク形式も採用されており、昨年度開催した第2回沖臨技主催リーダー育成研修会においても実施いたしました。それに伴い、技師会の

PCが必要となっております。これまでのPCもかなり古くWindows7対応であるため、機能的に限界がきており、学術研究班の活動に反映出来るようすべて買い換えております。また、技師会のホームページに関しても、これまで理事や学術委員の協力により無償で管理してきたが、各施設の業務内容が細くなり、どの施設も多忙な状況で、ホームページの充実化や会員への情報伝達の省力化（ペーパーレス化）も含めて、業者へ委託する形をとっております。

2024年度沖縄県医学検査学会（第59回）は、特別講演として青森県臨床検査技師会会長であられる奥沢悦子技師をお招きし、「災害・救急・プレホスピタルに挑む!～北国の臨床検査技師の今～」というタイトルで講演していただきました。シンポジウムは「コロナ禍を振り返って～各方面から次の有事に備えるために～」のタイトルで、今回のパンデミックに対する沖臨技の取り組み、実際の医療現場、民間検査センター、そして行政の立場から各有識者を招いて、コロナ禍を振り返りながら次の有事を見据えて討論していただきました。加えて、意外にも初めて沖縄県医学検査学会の学会長を務めた手登根稔前会長に、「沖臨技の歩みと今後の課題」について会長講演をお願いし、盛況な学会となりました。

以上、令和6年度の事業報告を述べてきましたが、昨年度は前述した内容で、出費の多い年度でありましたが、これから会員の皆さまに還元させるため不可欠なことなので、ご了承いただきたいと思います。新体制では、3役や理事の交代も多くみられ、かなり若手が加わってきております。一つの時代の移り変わりの時期に差ししかかっており、理事20名、監事2名、計22名で、一生懸命技師会活動に取り組んでいく所存でございます。会員の皆さまのご理解・ご協力を心からお願い申し上げます。

一般社団法人 沖縄県臨床検査技師会  
会長 山城 篤